

# はじけるこころ

Vol.54

まいにち学校 まいにち街 中こどもの笑顔につなげる

編集・箕面市人権教育推進会議  
発行・箕面市教育委員会人権施策室

TEL:072-724-6921

E-mail: eduinken@maple.city.minoh.lg.jp

令和4年(2022年)12月

この情報紙は、保育所・幼稚園・小中学校の保護者をはじめ、広く市民のみなさんに、身近な人権教育の話題を知っていただくため、市民参加方式で編集したものです。

ご家庭で子どもさんと、あるいはご近所や職場のかたと、こうした話題にふれて、語り合っていたいただければと思います。

## 幼・小・中と紡がれる

### 箕面市の平和学習

(なか幼稚園、萱野東小学校、第二中学校)

昨今の世界情勢についてのニュースを見聞きすると、今一度立ち止まって戦争と平和について考える必要を感じてしまいます。「平和ってどんなことなんだろう」「戦争はなぜだめなんだろう」「これからの世界をどんな風にしていけばいいだろうか」など、これらの社会を創造していく子どもたちが、幼稚園や小学校、中学校で、どのようなことを考えながら平和学習をしているのかお伝えします。

## なか幼稚園の取組

7月、なか幼稚園では園児と保護者が一緒に平和について考える「へいわのつどい」が実施されました。このつどいの前までには、ピースウィークとして、絵本などを通して平和や戦争について考え、自分が思ったこと・感じたことを伝え合っていました。

「へいわのつどい」では①絵本『なぜあらしの』の読み聞かせ②読み聞かせで感じたことをシェアリング③戦時中の様子のスライド④展示や絵本を自由に見学⑤全体のシェアリング、の構成で実施しました。

絵本『なぜあらしの』は台詞がなく、絵だけでお話が進んでいくのですが、園児たちは「なんにもなくなってしまう」「友だちもいなくなってしまう」「お花がなくなっている」「最初の場面と最後の場面が似ているけど全然違う」「戦っているときに絵本の世界がボロボロになったんだ」などそれぞれが感じたことを友だちや保護者のかたに伝えていました。



## もくじ

幼・小・中と紡がれる

箕面市の平和学習

(なか幼稚園 萱野東小学校)

第二中学校

教職員研修紹介

「人権教育入門③」

「多文化共生教育」

西小学校 5年生

事実と意見について考えよう

(西小オープンスクール)

第4回イキイキさわやかに学ぶ会

「車いすからパラリンピック、そしてともに生きる社会」

「パラアスリートからのメッセージ」

学校図書館司書コーナー

「自分らしく生きていこう!」

はじけるこころ 53号の感想紹介

編集後記

9 8 7 6 4 1

先生の「うまく伝えられそうにないときはどうしたらいいかな」という問いかけには

真剣に考え、「うばいに行くんじゃないかとれがいい」「お花を交換したいことを伝えたい」などの意見を伝えていました。

自由見学の時間には、大人と子どもが平和や戦争について語り合

いながら見学している姿が見られました。友だちや先生とだけでなく、保護者のかたも一緒に考えたり伝えたりして、思いを共有することで、園児一人ひとりが本当にじっくりと考えることができる時間となっていました。

最後のシェアリングでは、園児が一人ずつ感じたことを発表しただけでなく、保護者のかたがたもそれぞれが感じたことを伝えてくれました。「箕面には戦争こないよね」というつぶやきがあった際には、みんなで平和な日常のよさを再確認することもできました。今後、子どもたちは、平和メッセージづくりや折り鶴づくりを保護者のかたと行い、作ったもの



を小学校の6年生に託し、広島に持って行ってもらうそうです。

「リアルにニュースで戦争のこと、映像が流れている現状で、読み聞かせだけで終わらずに、大人も子どもと一緒に考える活動が必要だと思っていた。未来を生きる子どもたちに戦争ではなく平和がいいと思っしてほしい。」という先生がたの思いが、子どもにもよく伝わった「へいわのつどい」になりました。

### 萱野東小学校の取組

萱野東小学校では、各学年の発達段階に応じながら、全学年で平和学習に取り組みしました。9月には全学年での平和集会を開催しています。各学年が取り組んだ平和学習の内容や平和集会当日の様子を紹介します。

#### 1年生

平和学習で『かわいそうなぞう』の絵本を読み、戦争について考えました。今の世界情勢のことも話題にしなが、「平和ってなに?」、「自分たちは平和を守るために何ができるのか。」についてみんなで意見を出しました。子どもたちは真剣なまなざしで「みんなで遊んだり、勉強したりできることが平和。これからも平和を大事にしたい。」と発表していました。子どもたちは、しっかり平和の大切さを感じているようでした。

#### 2年生

『8月6日のこと』の絵本を読み、「戦争の恐ろし

さ」について考え、広島、長崎に原子爆弾が落ちてたくさんの人が亡くなったことを知りました。そして、『へいわってすてきだね(詩 安里有生 ブロンス新社)』の絵本を通して、「自分にとっての平和」を考え、絵で表しました。詩を書いた安里さんが当時小学1年生であったことを知ると、子どもたちから「えー!」と驚きの声が上がりました。

#### 3年生

国語で『ちいちゃんのかげおくり』の学習を行いました。今、平和な暮らしができている自分たちと、戦争の中ひとりぼっちになっても、最期まで家族を待ち続けた、ちいちゃんを比べながら読み進めました。空襲によって自分の大切な家族や家が突然奪われてしまう悲しみや恐ろしさから、平和の大切さを再確認し、学習の終わりには物語の題材にもなっている「かげおくり」を実際に運動場に出て行いました。



#### 4年生

初めに「今は平和なのか?」を話し合いました。「毎日ご飯が食べられるから平和だ。」「友だちと仲良く遊んでいるから平和だ。」という意見もある一方

で、「戦争をしている国もあるから平和ではない。」  
「時々、友だちを傷つけてしまうから平和ではない。」  
という意見もありました。その後、戦争当時の人々の  
思いを学習し、平和のために今の自分にできること  
を話し合いました。「戦争や世界について学び続ける  
こと」「友だちの気持ちを考えること」など、真剣に  
話し合う姿が見られました。

#### 5年生

絵本『わたしの「やめて」』を読み、平和のために  
自分たちに何ができるか、お家の人にインタビューを  
しながら考えをまとめました。「自分中心ではなく  
小さなことから行動する。」「人の気持ちを大切にす  
る。」「本当についていいか考える。」等の意見が出まし  
た。身の回りの小さな争いが大きな戦争につながって  
いくことをふまえ、今の自分たちにできることを、一  
人ひとり考えることができました。

#### 6年生

9月8日に広島から被爆体験伝承者のかたにお越  
し頂き、お話を聞かせて頂きました。太平洋戦争が  
始まったきっかけや戦時中の子どものかたちについて  
考える機会になりました。平和に向けて私たちにで  
きることとして、「知る」「理解する」「考える」を大  
切に、これから調べ、学習したこと他学年に「伝える」  
という活動につなげていきます。

9月15日に、「平和集会」を開き、各学年の代表の  
児童がそれぞれの取組を発表し交流をしました。そ  
の後、6年生は、さらに学習を深めるために平和学

習を継続して行い、10月24日、25日には広島へ修学  
旅行に行きました。平和記念公園や資料館見学など  
をとおして、平和の  
大切さをより深く  
考えることができ  
ました。11月には、  
6年生の平和学習  
の発表が全校児童  
にありました。平  
和とは何か、平和  
な世界を実現する  
ためには何が大切  
なのか、じっくりと  
考える機会を子ど  
もたち一人ひとりにつくることを大切に、今後も平  
和学習を進めていきたいと考えています。



### 第二中学校の取組

第二中学校では、どの学年でも平和学習は推進し  
ていきたいという思いのもと、コロナ禍以前とは少し  
形を変えながら平和学習が進められています。今回  
は、その中でも2年生での学習を紹介します。

2年生は、①大阪大空襲の聞き取り学習②校外学  
習でのピースおおさか見学、大阪城周辺の戦跡めぐ  
り③「平和」とは何か考える、という構成で一学期の  
学習を進めていきました。

これまで、広島のことや自分の興味のあるテーマ

で平和学習を進めてきた子どもたちが多くいまし  
たが、大阪大空襲については、詳しく学習した経験が少  
ない生徒が多く、聞き取り学習から興味深く学習に  
取り組むことができました。

大阪城周辺に残る戦跡巡りでは、ボランティアガイ  
ドさんに協力してもらい大阪城をただ観光するだけ  
では、なかなか気が付かない戦跡に関心を寄せるこ  
とができ、「石垣のところに弾痕が残っているなんて  
思いもしなかった」というような感想も聞かれまし  
た。

ピースおおさかでは、当時の戦争に向かっていく大  
阪の様子、空襲で受けた被害の様子、当時の記憶を  
もとに書かれた絵画の見学や防空壕の体験などを  
行いました。見学を終えた生徒は「小学校1年生か  
ら戦争のことは学習しているけど、大阪大空襲につ  
いてはくわしくやったことがなかったからマッピング  
映像を見たときは体が震えた」と「当時の大阪の子  
どもたちの体の大きさはすごく小さかったこと、子  
どもを守ったまま亡くなった母親がたくさんいたこ  
と、戦争中の大阪の風景が今とは全然違ったことが  
印象に残っている。」などの感想を書いており、聞き  
取り学習で学んだことを一人ひとりがさらに深める  
ことができていました。

校外学習後の授業で、それぞれが考える「平和」と  
は、どのようなものか考える際には、これまでの経験  
や積み上げてきた学習から「平和」をどのような言  
葉で表すべきなのか、真剣に悩んでいる様子が見ら  
れました。「世界の情勢にも興味を示す」「ありがと



う・ごめんを忘れずにしっかり伝える。相手の気持ちを考えて発信する」「日ごろから相手のことを否定したり、差別したりしないように心がけて、ささいなところからの平和をみんなでめざしていく」「他者との手を取りあい、納得する意見を見つけること。そのためにまだまだ人のことや世界のことを知りたい」



「自分と違う意見に対して、否定するんじゃないくて、そんな考え方もあるんだな」と思い、様々な主張や意見から物事を考えること。相手のことも知れるから必要だと思う。」「自分の頭で正しいか間違っているか判断して相手の気持ちも考えていく」「ジェンダーとかもそうだけど個人に

自由がある状態が平和。安心できる環境があること。自分がそういう雰囲気をつくっていくことが大切だと思う。」「など、平和を他人事ではなく自分たちの問題だと捉えて考えることができている生徒がたくさんいました。学びを自分たちの行動に還元していくという意見もあり、さすが幼稚園から中学校まで学習を紡いできた中学生という様子でした。

この後も、平和についての学習は進んでいき、12月には学校全体での平和集会があります。2年生だけでなく修学旅行やそれまでの学習で多くのことを学んだ3年生や聞き取り学習などで平和学習を進めてきた1年生も含めて、中学生がどのような言葉で平和学習をまとめていくのかとても楽しみです。

### 教職員研修紹介

#### 教員研修「人権教育入門③」

##### 「多文化共生教育」

箕面市では、教員の資質向上等をめざして様々な分野での研修をしています。人権に関わる研修も複数行っていますが、今回は8月に箕面市多文化交流センターで箕面市国際交流協会(MAFGA)の事務局次長の河合さん、第一中学校の永田教諭を講師に行われた多文化共生教育についての研修を紹介をします。

#### 多文化共生教育のキーワード

文化的な背景が違々と物事を判断する視点も大きく変わります。考え方、見た目、文化的な習慣など、世の中に「ちがいはたくさんありますが多文化共生教育では「ちがいを豊かさに」をキーワードにし

ていくこと、子どもたちが文化的な背景も乗り越えて「ちがいは自分を豊かにしてくれる」と考えられる取り組みを展開していくことが大切です。

#### 箕面市国際交流協会(MAFGA)からのお話



箕面市国際交流協会(MAFGA)の事務局次長の河合さんからは、日本国内に在住している外国籍のかたがたの現状や、箕面市国際交流協会が小野原にある箕面市多文化交流センターを拠点として活動していることを教えていただきました。

体験学習やお話を通して、日本に住む人口のうち2%を占める外国籍のかたがたの困り感について学ぶことができました。外国籍のかたが暮らしにくい上では、言葉の壁、制度の壁、心の壁の3つの壁があります。学校から子どもが持ち帰る手紙やプリントも言葉の壁があると、どれが重要なものかわかりづらかったり、子どもにとって学習言語の獲得は生活

言語よりも困難であったりします。

国際交流協会では支援事業の一環として、学校から渡される手紙と一緒に読んだり、提出書類を書いたり、日本語での学習が難しい子どもたちの勉強をサポートしたりすることもされているそうです。このようなお話から、学校も含めて、3つの壁やそれに伴う困り感を少しでも解決していくために98%のマジョリティができることを考えるきっかけになりました。心の壁をなくしていくためには「ちがいを豊かに」変えていく意識を多くの人が持つことが必要なのかも知れません。

### 学校での多文化共生の取組

第一中学校の永田教諭からは、学校における多文化共生教育についてお話がありました。

現在、永田教諭の受け持つ学級には、外国から渡日してきた生徒もいます。そのような生徒の困り感、不安感が少しでもなくなるように工夫してきたことや、周りの生徒たちと、あたたかな関係をつくっている様子など、人権教育の視点が大切にされた実際の教室の様子から具体的な取り組みを学ぶことができました。永田教諭は常々、子どもたちに「ちがいを豊かさにしていくって欲しい」と伝え続けているそうです。

また、これまでの経験から外国にルーツのある子どもたちが学校生活で感じる困り感についても教えていただきました。まずは、やはり言葉の壁だそうで

### どんな困ったことがあるの？



す。先生や友だちが話しかけているときにニコニコとしているので話の内容もわかってるように思われがちですが、実はニコニコとした表情をつくり不安や困り感をやり過ごしているだけということもあるようです。

さらに、外国にルーツがあると一言で言っても、今回の永田教諭の受け持つ学級のような渡日してきたばかりの子どもいれば、親世代が日本で暮らす選択をして生まれも育ちも日本の子どももいます。在日三世、四世の子どもたちだっていれば、ダブルルーツやミックスルーツの子どもたちもいます。その子たち一人ひとりの日本語の習得状況から背景まで様々です。外国にルーツがある子どもたちの状況は多様ですが教員として大切なのは、「①先生が子どもたちのルーツに関心があるということ」を伝えること、「②その国の歴史、文化、習慣などを勉強していこうという姿勢」ということを語られており、参加者の教員の大きな学びとなりました。

### 参加者の感想より

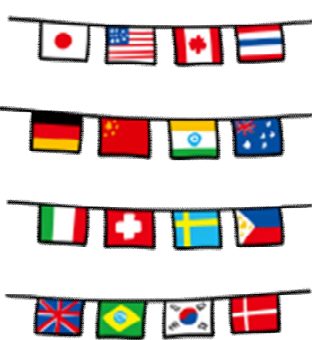
・一人ひとりの文化的な背景などによって、当たり前や常識は変わる。決めつけや狭い視野で子どもと関わり続けると、無意識のうちに不安にさせていたり、傷つけていたりといったことがあるかもしれないと頭に置いておく必要があると感じた。

・はじめはうまくいかなかったても、(大人が)子どもにとつてのロールモデルになることは重要であると思いました。

・大切なのは、自分自身がマイノリティと呼ばれてしまう人が直面する問題に対して、当事者意識を持つて、考えて行動することだと考えます。

・当事者のがんばりだけでなく、周りをどう変えるか、どう成長させるかで、社会が変わっていくことを学んだ。周りも成長させる仕組みづくりをたくさんやっていきたい。

・講師の先生のお話から「ちがいは豊かさなんだよ」ということを伝え続けることの大切さ、私たちのあたり前があたり前ではないときがあるという意識を持つことの大切さを学びました。





## 西小学校 5年生

## 「事実と意見を考えよう」

(西小学校オープンスクール)

西小学校では、授業参観で人権教育の授業を行うようにしています。9月10日(土)に開催されたオープンスクールでも、仲間とのつながりを深めるための学習や、「もちあじ」を見つめる学習、絵本を活用した障害理解学習などが行われていました。その中でも、今回は5年生の教室で行われていた「事実と意見を考えよう」という学習を紹介します。

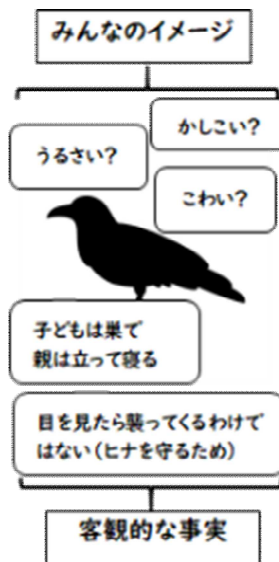
## カラスのイメージは？

「カラスにはどんなイメージがありますか」

担任の先生が子どもたちに問いかけると、子どもたちからは「ずるかしこい」「ごみをあらす」「かしこい」「うるさい」「どこにでもあらわれる」など様々な意見が出されました。カラスに対して、マイナスイメージを持っている子どもの方が多いようでした。

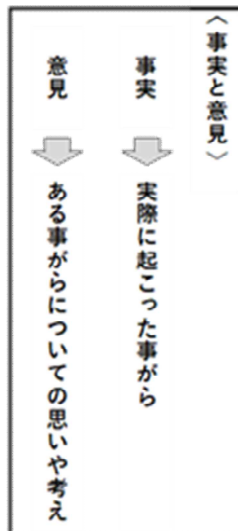
みんなの持っているイメージを教室の中で共有した後、カラスに関する〇×クイズに取り組み、カラスについての事実を知った子どもたちは、自分たちが考えていたイメージとは異なるカラスの姿に驚いている様子を見せていました。「カラスは結構身近にいる

けど、意外と知らない一面があったんだと思った」や「カラスはこわいと思っていたけど、イメージとぜんぜんちがいました。少しかわいいなと思った」などとワークシートに書いていました。



## 「事実」と「意見」を考えよう

カラスという題材を通して考えたことを交流した後、「事実」と「意見」のちがいを次のようにまとめました。



「A型は〇〇、B型は△△とか血液型のやつは意見だと思う」「性別(男は〃、女は〃)でそういうことある」など意見が事実のように広まっている事例についてグループで時間をかけて話し合い、教室全体で出し合いました。どれも身近なところで聞かれるもので

すが、事実かどうかは判断が付きにくいもので、ある種の決めつけのようなものもありました。

「意見」や「ステレオタイプ」にマイナスの感情が付け加えられると「偏見」となり、そこから「差別」という行動にもつながってしまいます。

だからこそ、今回の学習のまとめでは次のようなことを大切にしていこうと確認されていました。

- 〈まとめ〉
- ① 自分の考えを持つ
  - ② 決めつけを見抜こう
  - ③ ちがいを認め合おう

ふりかえりでは、「今日の授業で決めつけ、偏見、差別ってどんな悪化しちゃうことがわかった」「ちゃんとそれは違うと思うって言う」や「ながされて、うわさを広めたりしない」「うわさの情報源を確かめる。聞いた情報を自分は流さない」などと書いていました。学んだことをこれからの行動につなげていくとする子どもたちの様子が頼もしく思えました。このような学習の積み重ね、一人ひとりが人権意識を高めていくことで、誰もが安心して暮らせるクラスや学校、社会につながっていくのだと感じられる授業でした。



## 第4回イキキさわやかに学ぶ会

「車いすからパラリンピック、そして  
ともに生きる社会」パラアスリー  
トからのメッセージ

◇講師 田口亜希さん

(日本財団パラスポーツサポートセンター所  
属、パラリンピック射撃日本代表、日本パラリ  
ンピアンズ協会副会長)

10月13日(木)の第4回「イキキさわやかに学ぶ  
会」では、田口亜希さんが講演されました。病の発病、  
そして射撃との出会い、パラリンピックについて選手や  
理事としてのご自身の経験からご講演下さいました。

田口さんは客船の乗務員として勤務されていた  
25歳のとき、脊髄を損傷する病を発病され、車椅子ユ  
ーザーとなりました。当時は「車いすではできないよ」  
と言われることで傷つきたくないの思いから「何か  
したいと思うこと、何か目標に向かうということとは  
やめればいい」と考えていたそうです。しかし2年半  
後には仕事へ復帰し、そして射撃と出会い、2004  
年のアテネパラリンピックを意識したとき、田口さん  
は「先のことを考えて目標を決めている自分自身」  
に驚いたそうです。

「射撃を始めたことによって目標ができ、その目標  
に向かって努力することができ、そして努力するこ  
とで、前に進んでいったのではないか」と田口さんは  
言います。

講演の中で、とても大切な言葉としてユダヤ系ドイ  
ツ人で「パラリンピックの父」とされるルートヴィヒ・  
グッドマン博士の言葉「失ったものを数えるな、残さ  
れたものを最大限に生かせ」を紹介されました。

パラリンピックに出場された経験からは、射撃競技の  
説明や過酷さ、支えてきてくれた方々を思い、競技  
に取り組んできたこと、オリンピックとの違いなども  
語って下さいました。スタッフとしては、リオデジャネ  
イロパラリンピックの視察の経験から、ユニバーサル  
デザインの視点で、東京2020大会の会場の工夫  
の提案やメダルのデザインの提案もされたそうです。  
ちなみに世界で初めてパラリンピックという表現を  
愛称として公式に用いた大会が、1964年の東京  
大会でした。東京2020パラリンピックでは、19  
64年と比べると参加国は約8倍、参加選手の人数  
は10倍以上となったそうです。

最後にアクセシビリティの話をしました。アク  
セシビリティとは、アクセスのしやすさを意味し、  
「近づきやすさ」「利用のしやすさ」などと表されま  
す。車椅子ユーザーにとっての段差の解消や、視覚に  
障害のある方、聴覚に障害のある方の情報へのアク  
セスのしやすさも含まれています。講演の中で、田口  
さんが車椅子からご自身の車に乗る動画がありまし  
た。ドアを全開にして、車いすを自分の膝の上に引き

上げる様子があり、障害者用駐車スペースが通常の  
駐車スペースより広い理由がわかります。なぜその  
設計なのか、なぜその場所に設置されているのかな  
ど、日常の中で少し意識して考えてもらえたら、と  
いうことでした。

田口さんの職場は、車椅子ユーザーのかたが勤務  
し、パラスポーツを支える職場のため、ユニバーサル  
なデザインになっており、例えば、車椅子ユーザーの  
ためにコピー機は低く、洋服掛けは低くしたものと、  
立つて利用するかた用に高くしたものの両方があり  
ます。

田口さんは「共生社会を教えることも大切ですが、  
一緒に学校に通ったり、働いたり、スポーツをしたり、  
そうすると自然と意識せず、障害者も含めて誰もが  
安心して暮らせる共生社会が実現していきます。障  
害の有無にかかわらず、一方的に助けてもらうだけ  
ではなくて、お互いにできることで尊重し合い、助け  
合い思いやるのが、共生社会ではないか」と話され  
ました。

参加者からは、「目標を持てるようになることや目  
標を持ってそこに向けて取り組むことのすばらしさ  
を感じ、子どもと一緒に聞ければよかったと思い  
ました」「つい、マイナスに考えがちですが、改めて出  
来る事に目を向けていきたいと思いました」「身体障  
害者専用の駐車場、多目的トイレ等、知らなかった事  
を聞くことができて勉強になりました。家族に早速話  
をしました」「障害のある人も自身ができることは  
自分でする、できないことは周りがサポートする、特

別扱いではなく、対話して相手を知っていくことを大切にしていこうと思いました」などの感想が寄せられました。

### 学校図書館司書コーナー

「自分らしく生きていこう!」

「ピンクは女の子の色」「女の子だからズボンにはかないの。」そんななにげない教室での子どもたちの会話をキャッチした低学年の先生から「女らしさ、男らしさ、について考える授業を行いたいの、低学年に読んでわかるような絵本を紹介してほしい。」という内容のレファレンスを受けました。

そこで紹介したのがこの絵本です。主人公のメアリーは、ちよつと昔のアメリカに住む女の子。その頃は、女性のみなドレスを着るのが「当たり前」の時代。しかし、ドレスは動きにくく、息をするのも楽ではない服。そんなドレスを着続けることをおかしいと思ったメアリーは、意を決して今まで女の子がいたことのないズボンをはいて外へ出ます。行く先々でまわりは大騒ぎ。男の子の服を着ていると言われたメアリーは、「わたしはわたしのふくをきているの!」と答えるのです。

絵本も決まり、学年の担任の先生たちは、相談しながら授業の流れを組み立てていきます。授業では、「サッカーは男の人のスポーツ?」「看護師は女の人の

の仕事?」などの例をあげたワークシートに、子どもたちが考える性をそれぞれ書いていくことに。その後、クラス全員で「これって男っぽい?女っぽい?」と考えていくスタイルに決まりました。絵本は、最後に担任の先生が読むことになりました。

本番の授業は、残念ながら司書は見る事ができなかったのですが、先生から話を聞かせていただきました。ワークシートには「サッカーは男の人のスポーツ、看護師は女の人の仕事」と書いていた子どもがいたものの、「サッカーには女子チームもあるよ。」「男の人が看護師をしているのを見たよ。」というクラスの子どもたちの発言が続くにつれて、子どもたちは「そもそも男っぽい、女っぽいなんてことにこだわらなくていいんだ!」と気づいていったとのこと。発言が白熱し、絵本は紹介だけに終わったクラスもあつたそうです。

これには後日談があります。授業後のクラスの子どもたちが図書館に来て、偶然、絵本を見つけ「あつ、これの前、紹介してもらった絵本や!」と声をあげたところ……。次々に子どもたちが集まり、一緒にページをめくり始めました。そして、最後のページにたどりつき、メアリーがズボンをはいた写真と解説を見たとき「えつ、ほんまにおったん?」と再度、写真に食い入るように見入ったのです。

常識と思われる事を疑問に感じ、自らそれを覆していくことは大人でも至難の業。それをやりとげたメアリーは、50年前に本当にいた人物なのです。

本は時に、過去の人物と現在を生きる私たちを繋

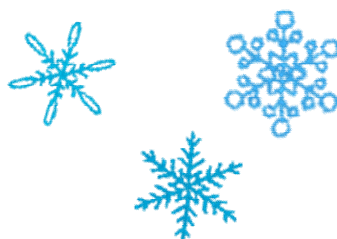
ぎ、勇気を与えてくれることがあります。きっと150年前のかなたから、メアリーは今を生きる子どもたちの背中をそつと押してくれたことでしょう。さあ、恐れずに、さらなる前に進もう、と。

(とどろみの森学園司書 中島康子)

『せかいでさいしよにズボンをはいた女の子』

キース・ネグラー／作 石井睦美／訳

光村教育図書 2020年



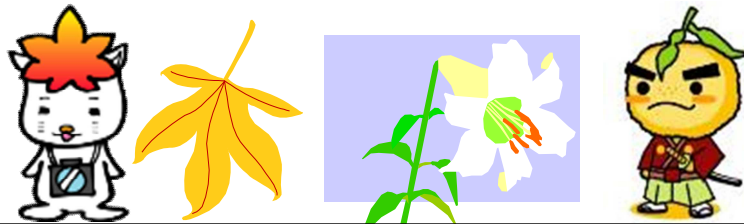
「はじけるころ 53号」の感想を  
紹介します

私はハートパークで、萱野北小学校の6年生の皆さんにお話しした者です。ハートパークのことを取り上げていただき、ありがとうございました。その他の記事も、素敵な内容で楽しく読ませていただきました。第五中学校のハンドインハンドの記事は興味深く読ませていただきました。ジャズ・ホルンについても、





初めて知って勉強になりました。私は昔ホルンを吹いていたのですが、クラシックのホルンしか知らなかったのが、世界が広がった気持ちになりました。MAFGAの動画は、まだ見ていないのですが、また見たいと思っています。紹介していただきありがとうございます。二番目の悪者という絵本については、考えさせられました。このように、「やってはいけないこと」について、考えることは大切だと思います。



#### 編集後記

「戦争は最大の人権侵害である」かつて平和について考える中で、この言葉と出会い、すっと腑に落ちた記憶があります。人権が大切にされていない状況は当たり前のようにおこる戦争や紛争は、どのようにしたら世界からなくなるのでしょうか。簡単に解決できる問題ではなく、答えも一つではないかも知れませんが、解決のためのヒントは、今回ははじけるころの中で紹介したような人権教育の実践を積み上げていくことで見つけられるのかもしれません。

「平和について考える」「ちがいを豊かさにする」「決めつけを見抜く」「常識を疑う」「情報を正確に読み取る」等々、人権教育の中には、誰もが安心して暮らすことのできる社会の実現のためのキーワードがたくさんあります。より多くの人たちがこのようなキーワードから社会を見通し、自分がどう行動するかを考えていくことが戦争のない世の中の第一歩ではないでしょうか。

今を生きる人たちの人権も、これから生きる人たちの人権も守られた社会づくりのためにも学校園所での人権教育は行われていきます。「はじけるころ」を読まれたみなさまにつきましても、お子様や身近な人たちと平和について、そして人権について話をしてみてください。

#### 「はじけるころ vol.54」はいかがでしたか？

みなさんのご意見・ご感想をお聞かせください。下記の①～④の内容を、郵送、ファクスまたはEメールにてお送りください。これからも人権教育に関心をもっていただける記事を掲載したいと思っておりますので、ぜひともお言葉をいただけることを編集委員一同お待ちしております。

記

- ①ご意見・ご感想、②お名前（無記名でも構いません）、③「はじけるころ」の入手方法、④（「はじけるころ」に掲載する場合がありますので）ご意見・ご感想掲載の可否について

〒562-0015 箕面市稲 1-14-5 箕面市教育委員会人権施策室

FAX : 072-725-8360

Email : edujinken@maple.city.minoh.lg.jp